



各 位

2009年3月13日

株式会社インプレスホールディングス

代表取締役社長 関本 彰大

(コード番号 9479 東証1部)

事業構造改革の実施及び2010年3月期連結業績予想について

当社は、経済環境等の急激な状況変化をふまえ、下記にお知らせいたします事業構造改革を実施いたします。また、事業構造改革とあわせて2010年3月期（2009年4月1日～2010年3月31日）の連結業績予想について下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 事業構造改革の実施について

(1) 目的及び内容

当社は、中期成長の実現を目指し既存メディア事業の収益性を基盤として、各セグメントにおいて積極的な事業開発投資を行ってまいりました。しかしながら、急激な景気後退及びメディア事業を取巻く環境の変化は、既存のメディア事業の収益性を著しく低下させ、また新規事業の収益化の遅れに波及いたしました。このため先行投資による固定費等の増加は連結業績を大きく悪化させました。

このような状況をふまえ、当社は、収益基盤の再構築を目的として、不採算事業の縮小及び撤退を中心とした事業構造改革を実施いたします。

(実施内容)

①不採算事業の縮小及び撤退

メディア事業のうち、出版事業を中心に、雑誌等の不採算事業の整理をはじめとして、抜本的な製品ラインの見直しを図ります。また、新規事業のうち、早期の収益化が見込めない事業の縮小・撤退を行います。

②事業拠点及びインフラの統廃合

オフィススペースを合理的にレイアウトし直し、約17%のフロアスペースの削減を実施、加えて物流・データセンタのインフラの統廃合等を行います。

③業務効率化等による固定費の削減

役員報酬の一律削減と共に、全社的な業務効率化の推進による人員配置の適正化、人件費水準の見直し等を行います。

(2) 実施による効果

上記施策により、固定費を中心に年間約1,050百万円のコスト削減（当期固定費相当額に対し12%減）を実現いたします。なお、事業構造改革の実施に伴い、本日付で別途公表しておりますとおり、連結業績で230百万円、個別業績で120百万円の特別損失が発生する見込みです。

2. 2010年3月期の連結業績予想について

引き続き、厳しい事業環境が想定され、特に雑誌等の販売及び広告収入は、不採算誌の休刊等の影響を含め、当期予想比約86%程度の水準を想定しております。このような環境の中、当社は、事業構造改革の施策を着実に推進することで、減収ながら固定費削減等により大幅な利益改善を図ります。

一方で、経済環境の変化によって今後否応なく加速されるメディア産業の構造変化を成長への機会と捉え、顧客の信頼に応える専門性を基盤に、その上で、様々なデータベースの蓄積・活用、顧客の明確なターゲット、ユーザーとダイレクトな関係性の構築、この3つのテーマを土台にして、紙媒体、Web、モバイル、そしてライブなど、それぞれのメディアの特性を生かした事業開発に投資してまいります。

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
2009年3月期連結業績予想 (A)	18,600	△450	△430	△1,300
2010年3月期連結業績予想 (B)	18,400	400	400	0
増減額 (A-B)	△200	850	830	1,300
増減率	△1.1%	—	—	—

以上

【本件に関するお問合せ先】

株式会社インプレスホールディングス 広報部

Tel: 03-5275-9010 / E-mail: release@impressholdings.com

URL: <http://www.impressholdings.com/>